



平成 29 年 3 月 1 日現在	
世帯数	962 戸
人口	2,400 人
男	1,200 人
女	1,200 人

任期を振り返って

公民館運営委員長 前澤宏

この度、無事二年の任期を終え、こうして退任の挨拶が出来ることに感謝しております。

振り返ってみますと、公民館活動を通して、いろいろな経験をさせていただき、この二年間は本当にあっという間に過ぎていきました。私が公民館の役員という大役を務められたのも、皆さま方の温かいご支援、ご協力と惜しみない努力のおかげであります。心より感謝申し上げます。

今後このご縁を活かし、内田地区の皆さまが主体的に行う地域活動をお手伝いすることにより、地域の絆を育み、地域で支え合う社会づくりを続けていければと思います。

最後になりましたが、この地域のますますのご発展と、皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

体育委員長

五味 岳秋

何も分からぬままに体育委員長を引き受け、なんとか任期を終えようとしている。

幸いなことに体協メンバーに恵まれ、各人が積極的に活動され、球技大会、運動会、ニュースポーツ、盆行事等を開催できました。

運動会はかつては二年続けて雨天中止となったこともあったが、任期中はいずれの年も晴天に恵まれ大運動会を開催できほっとした。

盆行事は、公民館改修にて初年度だけであったが、運動会へ向け体協同志の一体感を得ることとなった。

ニュースポーツは私自身も体協役員になって初めて参加した。これは老若男女を問わず楽しめる競技であるので、ぜひ多くの方に参加し体験いただきたい。

最後に、体協各位、公民館関係者他内田地区の役員の方々のお力添えなしには務まらなかったでしょう。ここで

皆さまに感謝申し上げます。また、体育行事に参加し大いに盛り上げていただいた参加者の方々にもお礼申し上げます。ありがとうございました。

館報編集委員長 横山 周次

三百二十九号を数えるに至りました。年間六号の発行とすると、半世紀を越え五十三年間継続されたことになりました。

昔は年間の発行回数が多かったのかもしれませんが、正確な年数とは言えませんが、内田の地で多くの人の手により育てられてきたことには、間違いはないと思います。私たち九人もその一端を担うことができたことを嬉しく思います。

私の感想を少し書かせて貰うと、二年間の館報の編集を通じて、公民館を主体にする様々な行事や、各町会の活動に触れることができました。

三十年以上この地を離れ、数年前に戻ってきましたが、改めて内田地区には歴史があり、良き文化が引き継がれていることに気づかされました。また、仕事を終えてからの会合は大変でしたが、編集委員皆さんの出席を得て、皆さんに楽しんでいただける館

報ができたのではないかと思えます。最後に、公民館長、公民館主事のお二人をはじめとして、記事を寄稿していただいた方々のおかげで無事二年間の任期を終えることができました。ことに感謝を申し上げます。「ありがとうございました」

図書視聴覚委員長 北原 美恵

私が内田に引越してきて五年目に図書視聴覚委員になってほしいと依頼があり引き受けました。無謀にも自分から委員長に立候補しました。

内田を知る良い機会と思ったのです。図書視聴覚委員の活動は、公民館の図書コーナーの整理、視察研修、内田史跡めぐり、大運動会は放送記録係・用具係、文化祭はサークル発表の総括・ステージ設営、ササラまつりでは綿飴係でした。任期二年目は、公民館の改修工事に伴い、文化祭とササラまつりは中止になりましたが、図書の見直し、内田住民へ一部蔵書配布を行いました。大運動会は不幸がありました。欠席させていただきました。活動の中で私は常に不安がありました。しかし委員の皆さまと主事さんのお力添えで、無事に終えることができました。心から感謝申し上げます。

報告ができたのではないかと思えます。最後に、公民館長、公民館主事のお二人をはじめとして、記事を寄稿していただいた方々のおかげで無事二年間の任期を終えることができました。ことに感謝を申し上げます。「ありがとうございました」

図書視聴覚委員を務めたことよって地域の方とも触れ合うことができました。最後に、私が目的としていました内田を知るという目標は、僅かではありますが叶いました。ありがとうございました。



文化祭 (27')



運動会



ササラまつり (27')



視察研修



昆虫観察会

人権啓発視察研修

貞享義民記念館
安曇野ちひろ美術館

三月五日、内田地区人権啓発推進協議会主催の人権啓発視察研修が行われました。今回は、貞享義民記念館と安曇野ちひろ美術館を訪れました。貞享義民記念館は去る貞享三年(一六八六年)に松本藩で起きた貞享騒動にまつわる史実を後世に伝えるために開館されました。

かの百姓一揆は、増税にあえぐ農民の窮状を憂いて立ち上がった、中萱村の庄屋である多田加助が中心となり起こったものです。記念館では、



時の農民の人権を改めて考える良い学習の機会となりました。昼食をはさみ、午後には訪れた安曇野ちひろ美術館では疲れ気味の脳みそを休め、視覚から癒されました。ちょうど、スタジオジブリの高畑勲さんによる企画展が催されており、部屋ひとつ丸ごと使ったピエゾグラフィが非常に秀逸で、まるで絵本に入り込んだかのような気分を味わえました。ちひろさんの絵は、一度見たことのある方であれば、ひと目で判別できるほどにオンラインワンの画風が確立され

ており、独自の魅力に溢れています。いずれの展示も清らかで温かみがあり、彼女の世界に浸ることが出来る素敵な時間となりました。

今回の視察研修は、年度最後の研修ということになりましたが、締めくくりに相応しく学びの多い研修になったかと思えます。

参加された皆さま、お疲れ様でした。



つれづれ編集記

別れと出合いの季節。仕事から小中学校の卒業入学式に出席させてもらい、子どもたちの小さな背中

に「がんばれ!」と声をかけてきた。そういえば夫が出席したある小学校の卒業式では、昔定番だった「仰げば尊し」が歌われ、とても感動したと話していた。歌といえば「校歌」は誰しもが懐かしく思い、そして心の応援歌となっ

- ♪ 朝日に匂う鉢伏の
 - ♪ 雲白く 嶺高く
 - ♪ 仰ぐ鉢伏高ボッチ
- 校歌は、その地域の素晴らし

史跡めぐりウォーキング

三月四日、内田公民館と内田地区福祉ひろば共催で、史跡めぐりウォーキングが開催されました。

体操をして体を温めて出発し、北回りコースを歩きました。公民館長の案内のもと、丁石やエリ穴遺跡を巡りました。今回は少し時間に余裕があったので、横山城址まで足を運びました。

風が強かったものの天候には恵まれ、良いウォーキング日和でした。

終了後には、皆さんで美味しく豚汁とおにぎりをいただきました。疲れた体に沁みわたりましたね。



地形・風土・歴史等を縦糸に、子どもたちが健やかに育ってほしいという願いを横糸に織り込んでいこうと思う。

この住み慣れた地域から離れ新生活をスタートさせる人、また新しくこの地域を生活の場とする人もいるだろう。どうかこの内田を離れる人は思い出し、また新しく来られた人は愛着を持っていただき、この地に縁のある人たちが

♪ 共に共に手をとりて、盛り上げていってほしいと思う。ちなみに私の「校歌」には、最後に「日本海からそびえ立つ「暑寒岳」が歌われている。瞳を閉じるとあの懐かしい風景が浮かんでくる。そして、あの「校歌」も歌い継がれていることと思う。



27・28年度

館報編集委員

- 一町会 鈴木 弘章
- 二町会 中島佳代子
- 三町会 加藤 昭仁
- 四町会 前沢しおり
- 五町会 横山 周次
- 六町会 北原 清吾
- 七町会 二條 宏昭
- 八町会 野口 勝典
- 九町会 百瀬 泰伸

四町会 前沢しおり